

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

屏風山湖沼群サイト

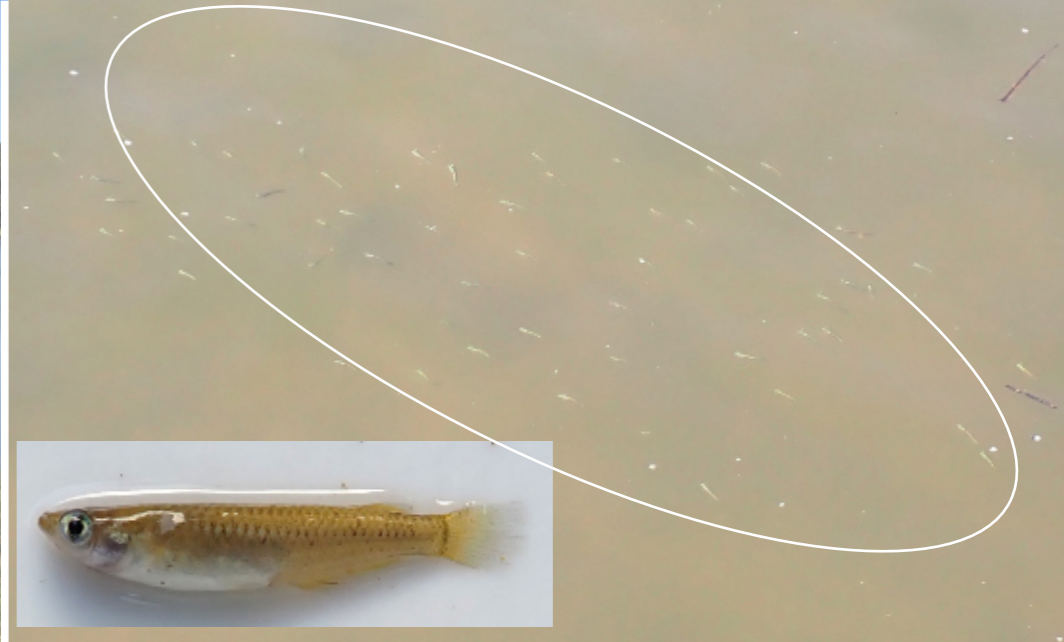
－青森県つがる市－

屏風山湖沼群は、青森県津軽半島西部の屏風山地域にある日本有数の湖沼地帯です。海岸沿いに発達した砂丘列の凹地に大小180もの湖沼が点在しています。本地域の湖沼では、これまでに約20種の魚類が記録されており、キタノメダカやトミヨ属淡水型といった環境省レッドリスト掲載種も確認されています。

一部の湖沼は、低地に存在する貴重な高層湿原として津軽国定公園に指定され、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）」にも選定されています。



牛潟大溜池で定置網を回収する様子（2025年9月撮影）



足元を群れで泳いでいるキタノメダカは、環境省のレッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として掲載されています（2025年9月撮影）

2025年度の調査結果概要

屏風山湖沼群サイトでの調査は、2019年以来、2度目となります。1回目の調査を6月28日～29日、2回目の調査を9月14日～15日に実施しました。調査地点は3湖沼（牛潟大溜池、館岡大溜池及び冷水沼）とし、定置網に入った魚類を回収して、種ごとの個体数を数え、湿重量を測定しました。また、定置網に入りにくい魚種を補足採集するため、投網とタモ網を用いた調査も行いました。

調査の結果、1回目は14種、2回目は15種、合計で17種の魚類が確認されました。6年前と同様に、今回の調査でもヤリタナゴ、キタノメダカ及びトミヨ属淡水型といった環境省レッドリスト掲載種が確認できました。一方で、外来種のブルーギルやオオクチバス、国内外来種のタナゴやモツゴ等も引き続き確認されています。個体数で見ると、両調査ともにハゼ科のヌマチチブが多かったほか、6月はジュズカケハゼ、9月はブルーギルの出現が目立ちました。

【調査者・調査協力者】

竹内基（岩手県立久慈高等学校）、柿野亘、池田伊織、伊藤颯岳、梅田省伍、江波亮太、関口天基、矢部真之介、山崎鉄太（北里大学獣医学部）、斉藤憲治（水生生物保全協会）、青木美鈴、朴 恵真、丸山啓太（WIJ）



6月のみに出現したトミヨ属淡水型は、環境省のレッドリストに「絶滅のおそれのある地域個体群」として掲載されています（2025年6月撮影）



定置網で採集した魚類の同定（種類分け）を実施する調査メンバー（2025年6月撮影）



タナゴ（2025年9月撮影）
環境省レッドリスト掲載種ですが、本サイトでは国内外来種です



館岡大溜池では様々な大きさのブルーギルが確認されました。本種は在来種への影響が大きく、特定外来生物に指定されています（2025年9月撮影）

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 淡水魚類調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeFreshwaterfishes_manual_ver2.pdf

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

猪苗代湖サイト

ー福島県会津若松市・郡山市・耶麻郡猪苗代湖町ー

猪苗代湖は、福島県のほぼ中央に位置する国内で4番目の面積を誇る淡水湖です。猪苗代湖とその周辺水域では、これまでに約36種の魚類が記録されており、スナヤマメ種群やキタノアカヒレタビラ等の絶滅危惧種も確認されています。一方、オオクチバス、ブルーギルやモツゴ等の国内外の外来種も確認されています。

猪苗代湖は磐梯朝日国立公園に指定されているほか、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）」にも選定されています。また、2025年7月には、国内で54か所目のラムサル条約湿地として登録されました。コハクチョウが多くやってくるのが有名で、重要な渡来地となっています。



調査地点付近の様子。9月は渇水の影響を受け水位が低かったです。（2025年9月撮影）



ウゲイ（2025年9月撮影）
猪苗代湖では「アカハラ」と呼ばれ、伝統的な漁業の対象種になっています。

2025年度の調査結果概要

猪苗代湖サイトでの調査は、2019年以来、2度目となります。1回目の調査を7月2日～3日、2回目の調査を9月17日～18日に実施しました。定置網に入った魚類を回収し、種ごとの個体数を数え、湿重量を測定しました。また、定置網に入りにくい魚種を採集するため、投網とタモ網を用いた調査も行いました。

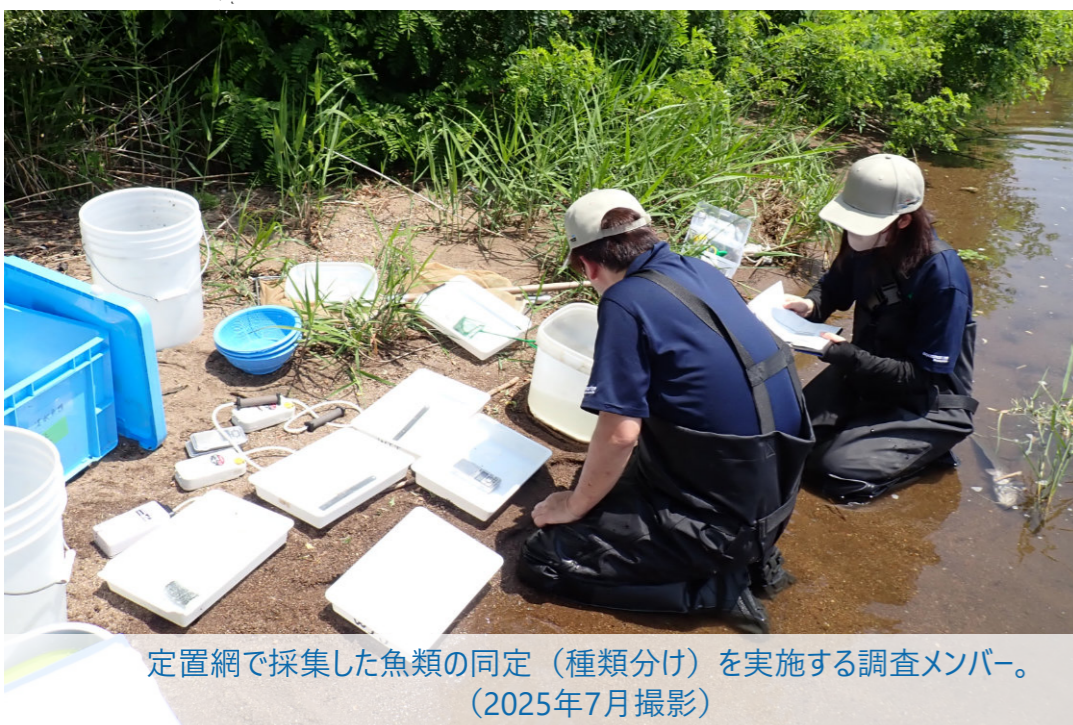
調査の結果、1回目は9種、2回目の調査は13種、合計で14種の魚類が確認されました。6年前と同様に、今回の調査でもヤリタナゴ、キタノアカヒレタビラ及びドジョウといった環境省レッドリスト掲載種が確認できました。一方で、外来種のカムルチー、国内外来種のカネヒラやモツゴ等も確認されています。個体数で見ると、6月はタナゴ類の稚魚やトウヨシノボリ類が、9月はヤリタナゴやウキゴリが多く採集されました。

【調査者・調査協力者】

平澤桂・岩田雅光・石井桃子（アクアマリンいなわしろカワセミ水族館）、猪俣絢女（福島県内水面水産試験場）、鬼多見賢（猪苗代湖の自然を守る会）、丸山啓太（WIJ）



ヤリタナゴ（2025年9月撮影）
環境省のレッドリストに準絶滅危惧種（NT）として掲載されています。



定置網で採集した魚類の同定（種類分け）を実施する調査メンバー。（2025年7月撮影）



カネヒラの雌（上）と雄（下）（2025年9月撮影）
美しい婚姻色を持ちますが、本サイトでは国内外来種です。



カムルチー（2025年9月撮影）
1m程度まで成長する肉食魚。国外外来種です。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 淡水魚類調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeFreshwaterfishes_manual_ver2.pdf